

心のこもったご葬儀をお手伝い
良心的な費用設定にも、ご納得・ご支持を得る

株式会社 青葉式典社（代表取締役会長） 今村 昌巳





創業時から苦楽を共にしてきた妻、専務取締役と

葬儀サービス事業を立ち上げてから、やがて半世紀 「寄り添い、弔い、お見送りする」を理念に掲げ対応 丁寧な案内とご希望を汲んだ提案に、大きなご支持が

葬儀サービス事業立ち上げ、法人化へ

あれは確か、昭和50年代に入ったばかりのころだったと思います。高校時代のクラスメイトで大手ゼネコンの秘書課に勤務する友人から、葬儀サービス事業を興してみる気はないか、とお誘いが…。

職務上、静岡・御殿場市にある系列病院とも一定のかかわりを有する彼のもとには、病院経営に関するさまざまな情報が寄せられてきます。亡くなられた方のこれからについて、ご遺族から看護師など病院スタッフに対し、「葬儀はどこに依頼したらよいのでしょうか」といったご相談が頻繁に寄せられていたそうです。友人は「どうやら、ここにビジネスチャンスを感じ取ったようです。そして当時、ひそかに脱サラ・起業を画策（彼にはバレバレだったようです！）していた私のもとへ、連絡を入れてきてくれたのです。」

振り返り、この先の生き方を踏まえ、た上での決断であったと思います。横浜の葬儀社で修行に励み、ひとりのことを覚え、身につけた後、静岡・御殿場へと乗り込みます。現在地からほど近い場所に、ささやかな事務所兼自宅を構えて事業スタート。昭和53年の、小雪舞う冬の日でした。近隣の病院や警察、役所などへ足繁く通い、いわゆる営業活動に励む日々。幸いにも功を奏し、徐々に受注も増えてきました。当時はほとんどが自宅葬で、特別な事情のある方が寺院葬または密葬で行われました。それでもお客様のご希望をうかがい、適した葬儀スタイルの提案とお手伝いに励んできたのです。

創業から4年後の同57年には、(有)青葉国際御殿場式典社（通称…青葉式典社）として法人化。以後も「葬儀なら青葉さん」の評価浸透に伴い、受注件数は安定化をたどり、業績も堅調に推移していきます。

霊柩事業本格展開、3つの都県で認可取得

葬儀サービス事業の立ち上げとほぼ同時に、霊柩事業の許可申請を陸運局へ提出。10数年後の平成6年になつてようやく、許可が下ります。本社事務所を拠点に、静岡県内を区域とした事業をスタートさせます。

翌平成7年、神奈川県川崎市内に



青葉ホール

川崎営業所を開設。事業区域を静岡・神奈川の2つの県へと拡大。さらに同10年には、東京を加えた3都県へと、事業領域拡大を実現します。

不幸にして御殿場で交通事故など不慮の死を遂げられた方には、遠く青森や北陸、四国などへとご遺体をお届けする案件も。私自身が霊柩車を夜通しで駆り、お届けしたケースも多々ありました。感謝とおもてなしを頂戴したあの日々のが、いまも懐かしく思い出されます。

同18年、沼津営業所を発展的に解



消し、三島市内に三島営業所を新設。

同20年、県立がんセンターの院内搬送受託を契機に、霊柩事業の合理化と充実を期して、三島営業所を廃止して、新たに隣接する長泉町内に沼津長泉営業所を新設しています。

本社に2両、川崎営業所に5両、沼津長泉営業所に4両。あわせて11台の車両体制を整え、ご遺体搬送の幅を広げご要望にお応えしています。

青葉ホール開設、

仏壇・仏具ショールーム併設

自前の葬祭式場を持ちたいという願いを、早くから持っていました。自宅葬に代わって、式場葬を選択なさる皆さまが増えてきている現実への対応に加え、外注先の事情にとらわれることなく、自社判断による良心的な費用設定を維持していくうえで、重要な課題であると認識していました。

土地の手配の問題などで困難を強いられてきましたが、平成15〜16年ごろになって、創業の地のすぐ近くに、比較的広めの土地を比較的安価な使用料で借りられる話がまとまったことから、事態が動き始めます。



同18年、葬祭式場「青葉ホール」の建設に着手。翌19年に竣工、営業開始。同時に本社機能も、こちらへと移します。

青葉ホールは、生花祭壇としても使用可能な白木祭壇を備えた本格的な空間仕様が特徴的です。ホール収容席数は、エントランスホールも含めて最大約70席。席数を減らすことにより、少人数の家族葬にも対応します。遺族・親族控室として設けた15畳和室では、お食事や仮眠も可能です。また駐車場は60台分を確保。車椅子にも対応したユニバーサルデザインのトイレなども装備。近隣にこれまでになかった葬祭会場として、絶大な評価を集めてきました。

また同23年には、青葉ホール敷地内に「仏壇・仏具ショールーム」をオープン。葬儀のみならず、その先のご供養にもお役立ちしたい、という想いが込められたショップです。予約不要、立ち寄り自由という手軽さもあって、多くの方々を訪れます。現代感覚にあふれた仏壇をはじめ、手元供養に合った分骨アクセサリー、豊富な種類のお線香など、プロの目利きで厳選した商品の数々へ、ご注目を頂戴しています。

新型コロナ禍—— 家族葬ニーズを取りこむ

新型コロナウイルスまん延の影響は、私も葬儀業界にも少なからぬ影響を及ぼしてきました。大人数での会合を避けざるを得ない状況に至ったことにより、大規模葬儀を主力事業としてきた同業には、とりわけダメージも大きかったようです。一方、当社のようにかねてより、ごちんまりとした家族葬を主体に事業を営んできた立場にとっては、「コロナ禍がかえってプラスに作用してきた部



分もあるように感じます。実際、堅調な受注件数推移にもその傾向が表れています。

ただし業績は、事業環境のみによるものではなく、事業への取り組み姿勢に対する評価が大きな部分を占めるということは、申し上げるまでもないでしょう。

私どもは、葬儀に対しさまざまな不安を抱く皆さまへ、「あなたの気持ちに寄り添い、ゆつくりと丁寧にご案内をさせていただく」「あなたの声にしつかりと耳を傾け、不安をひとつひとつ取り除き、ご希望に沿った葬儀をご提案させていただく」——この考え方をずっと大切にし、実践に努めてきました。この姿勢が業績のバックボーンとなっていることに間違いはありません。

近々、親族への事業継承を進める予定です。



今村昌巳 いまむら まさみ

昭和8年、東京生まれ。戦時下での疎開時期を除き、東京で育つ。同31年、東京教育大学(現・筑波大学)卒業。区立中学校、都立高校での教職を経て、サラリーマンへ転身。同53年、静岡県御殿場市にて葬儀サービス事業立ち上げ。同57年、(有)青葉国際御殿場式典社設立に伴い、代表取締役役に就任。令和3年(株)青葉式典社へと改組・改称後も引き続き代表取締役を務める

代表者 代表取締役会長 今村昌巳

創業 昭和53年

設立 昭和57年

事業内容 葬儀施行、ご遺体搬送、役所への届け出代行、新聞への訃報掲載手配、地方斎場の斡旋ならびに寺院・僧侶・神官の紹介、仕出し料理・弁当・生花・供物の斡旋、即日返礼品・香典返しの斡旋、仏壇・仏具の販売、墓地・墓石店の紹介

所在地 〒412-0043

静岡県御殿場市新橋836-6

電話 0550-83-8161

URL <https://aoba8161.net/>